

移住
FILE
02

森●●さん●●さん

前職	会社員
現職	会社員
住まい	一戸建て
移住して良かったこと	自分達らしい生活ができるようになった
移住して困ったこと	東京からの終電が早いので都内での集まりの時は大変

共に千葉県内の会社で働く神奈川県出身の森●●さんと、兵庫県出身の奥様●●さん。結婚を機に一宮へと引越した二人は、さまざまな趣味を持つアクティブな夫妻。移住してからは本格的な料理や乗馬など新しいことにも積極的にチャレンジしているそうだ。

東京都 ⇄ 千葉県・一宮町

アウトドアもインドアも
120%楽しむ一宮ライフ

PROLOGUE

80坪という大きな敷地の中に堂々と建つ平屋のサーファーズハウス。リビングの横には大きなバルコニー、玄関の前にはカバードポーチを備えたアメリカな住まい。●●色の外壁と●●ブルーのドアカラーがかわいいこの家は、千葉県一宮町に建つ森邸だ。●●さんと奥様がマイホームを建てる場所として選んだのは、自分達にとってもっとも心地のいい場所、自然に囲まれた千葉のサーフタウン一宮町であった。

PHOTO_Kosuke ARAI 新井康介 TEXT_Shiho FUKAMATSU 深松詩航
SPECIAL THANKS_つるおか工務店 WEB_ <http://daiku.co.jp/>

リビングに光を取り込む天窗は自動開閉シャッターつき。夏はここを開放しておけば涼しく快適に過ごせるそう。



サーファーにはマストの脱衣所へとつながる勝手口。奥に見えるのは風呂場からのぞけるコートテラスだ。



風呂場横には植物が並べた小さなコートテラスを設置。夜にはライトアップされ、入浴しながら癒されているそうだ。

奥様こだわりの洗面台。大理石で広々としており、まるでホテルのよう。縦横両方にコスメを並べるニッチ棚を造作。

ヨーロッパのホテルのような可愛い手洗い器がついたトイレ。こちらの手洗い器は輸入住宅を多く手がける「つるおか工務店」の標準仕様だそうです。



from the city

カリフォルニアに佇むサーファーズハウスのような森邸。ブルーのドアと赤いポストがアクセントの可愛い外観だ。



土地面積80坪の広さを利用した 平屋造のサーファーズハウス

「この土地に越してきてから趣味が増えました」と話すのは神奈川県出身の森●●さんと、兵庫県出身の奥様●●さん。2017年3月に千葉県一宮町へと移住した二人が暮らすのは、広いウッドデッキとカバードポーチが魅力的な平屋のサーファーズハウスだ。もともと仕事の関係上、千葉県内に長く住んでいたそうだが、これまでは●●と●●●など市街地ばかりだった。そこで、結婚後二人が生活を共にする家を建てるにあたり、かねてより念願だった海に近い外房エリアへと引っ越すことを決めたそう。もともとサーフィンが趣味だったという●●さんの希望もあり、土地は外房の中でも比較的移住者が多く、いざとなれば東京へも電車で迎えるJR外房線の始発駅。特急列車や、快速電車もあるので“移住”というほどの障害はなにもなかったそう。

とはいえ、これまで暮らしたことがない土地にマイホームを建てるのは、なかなか

勇気があるもの。土地探しや工務店選びなど、はじめての事が多く最初はかなり戸惑ったそう。複数の工務店の施工事例を見ていく中で、特に気になったのが宿町に拠点を構える「つるおか工務店」だった。海外の住宅を建てる際によく使われるツーバイフォー工法を得意とし、輸入住宅にも力を入れているハウスメーカーだ。

夫妻は海外の雰囲気を細部まで再現するその完成度の高さに惹かれた。平屋ならではの天井の高いリビングも気に入ったポイント。天井がたかいことで陽を取り込みやすく、明るく気持ちのいい家が出来た。リビングの窓を開け放つと、大人20人は余裕で入る広々としたウッドデッキにも続いている。夏はここで友人や親戚を招いたり、ビールを片手に日焼けをするのが日課だそう。

注文住宅であるため、自分達で決めることが多く、間取りや外壁などひとつひとつ決

めていくのは大変だったそう。実際に暮らしてみると改善点もあるが、それも含めて家づくりは二人の思い出になったという。

また「つるおか工務店」では、もちつき大会やクリスマスパーティーなど、オーナー同士の交流の場を頻りに設けているのも有り難かった。知り合いがほとんどいない土地に引っ越してきた移住組だが、すぐに仲のいい友人もできたという。

「自然がたくさんあるこの地域に引っ越してさらに趣味がふえました」と話す二人。もともと奥様●が学生時代馬術部に所属していたこともあり、現在は近所にある乗馬クラブに通い夫婦で乗馬も楽しんでいる。これまでサーフィン一筋だった●●さんも、今ではすっかり乗馬に夢中だ。これまで年に数回の休暇時にしか感じることでできなかったのんびりとした時間が、ここでは毎日のように繰り返す。森邸の朝は、いつもゆっくりと始まる。



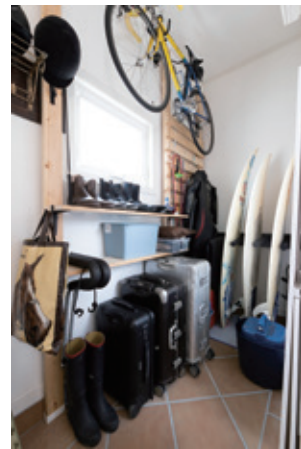
移住してからは、外食する機会も少なくなり、家の中で本格的な料理を作っておうちごはんを楽しんでいるそう。

「非日常が日常になる暮らし」

移住で手に入れたもの



家のいたるところに飾られた馬モチーフのアイテム。ビーチを連想させる雑貨など、それぞれの趣味がインテリアにも反映されている。



玄関横にある収納スペース。多趣味な森夫妻はこの収納を余裕をもって広々と設置。一目でもものが取り出せるよう整理整頓された空間だ。



白を基調とした他の部屋に比べて落ち着いた印象のベッドルーム。ここはあえてブラウンをポイントにして雰囲気を変えている。

もともとアウトドア派だったという森夫妻。この家に越してからは家の中でも手芸などを楽しんでいる。こちらのカーテンタッセルも奥様の手作り。



広々としたバルコニー。フロアはウッドデッキではなく、より耐久性に優れたタイルを採用している。夜にはライトアップされ、さらに魅力的な空間になるという。

玄関前のカバードポーチ。夏はここでビール片手に七輪でバーベキューを楽しむそう。ボードのメンテナンスもここで行うことがほとんど。



千葉県一宮町 | 会社員